

国際ラウンドテーブルミーティング
「時代の変化とこれからのインフラ」

令和3年9月8日

第109代土木学会会長

谷口 博昭

公益社団法人土木学会／JSCE

- JSCE (JAPAN SOCIETY OF CIVIL ENGINEERS) は1914年に設立され、産学官の約4万人からなる我が国最大の土木関係者の団体です。
- 土木工学の進歩及び土木事業の発達並びに土木技術者の資質の向上を図り、もって学術文化の進展と社会の発展に寄与することを目的とする。
- 先人の事業を受け継ぎ、発展させながら未来を切り拓く意の「継往開来」の精神で務めている。

JSCEの役割と現在の取り組み

- 産学官の交流・交際を促進し、情報・知識・知恵の宝庫となり、エビデンスに基づくタイムリーな提言を出すことが肝要。
- 困った時には相談、駆け込み寺の役割も期待。
- 少子高齢化・人口減少時代、将来の担い手確保が急務の課題。
- 「開かれた魅力溢れる土木学会」を目指し、来年6月を目途に、「コロナ後の日本創生と土木のビッグ・ピクチャー」を策定する予定。

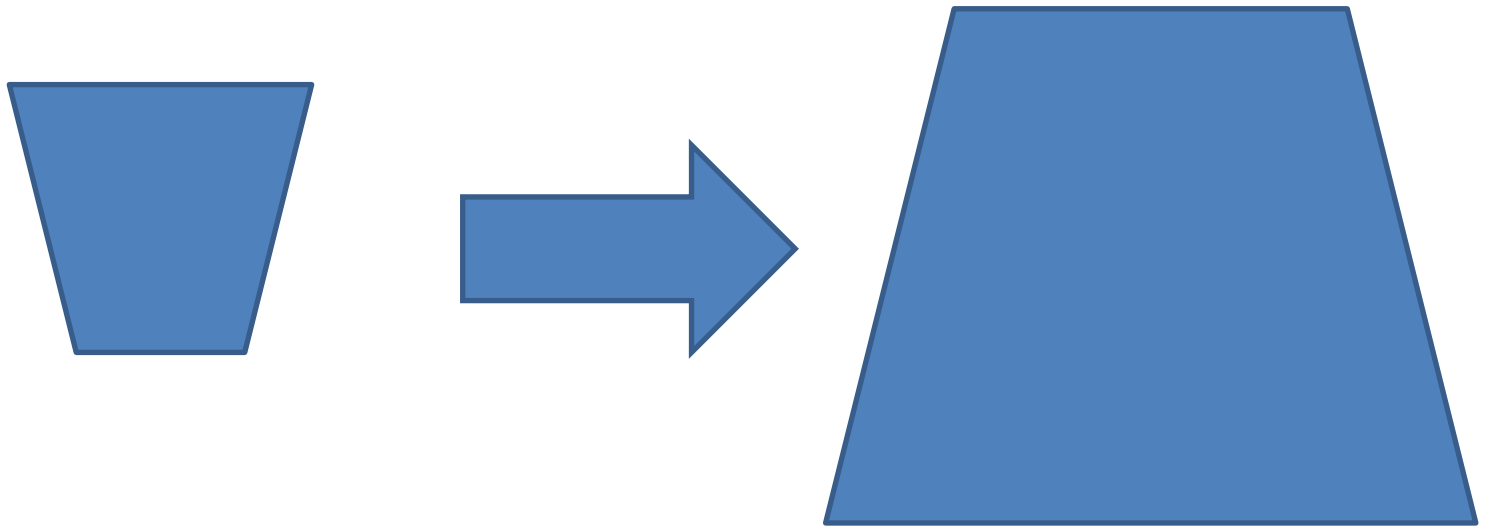
ビッグ・ピクチャー（全体俯瞰図）とは

- アメリカでは、皆で力を合わせて行う必要があるときには、ビッグ・ピクチャーが必要という。
- 将来の備えには、暮らしや経済のビッグ・ピクチャー（全体俯瞰図）が必要不可欠。
- 土木事業は、計画・設計、施工、維持管理更新まで長期に亘る。請負、コンサルタント業務委託等分業化の時代、多くの方が関与。
- できる限り具体的なプロジェクトと財源の裏付けのあるビッグ・ピクチャーが必要不可欠。

インフラ・ストラクチャー

- INFRA・STRUCTUREとは、暮らしや産業を支える「下部構造」の意。
- 上部構造と共に進化・高度化することが肝要。
- イノベーションと分業を遂げながら進化してきたが、厳しい財政状況に伴い、公共事業予算の削減が20数年継続されてきた。整備は道半ば。
- インフラを計画的・効率的に拡充・強化するため、「ビッグピクチャー」が求められる。

上部(暮らし経済)の拡大に応じて
下部(インフラ)も**バランスよく拡大を**



ビッグピクチャー策定手順

- ①土木学会と他機関の提案を整理。
- ②社会資本に関するインターネット意識調査
5月連休に調査済。
- ③国民、特に若者が期待する我が国・まちの
姿・プロジェクトの意見募集、note活用、9月
キックオフ。
- ④インフラの長期計画の推移と投資額調査
- これらを基に議論を深め、ビッグ・ピクチャー
を策定、提言。

グローバルな協調

- グローバル化・IT・DXの進展、気候変動・エネルギー問題＋COVID－19感染拡大等々大きな変化の時代
- **グローバルな協調が不可欠。**
- IT等技術の進歩のスピードが速い時代でもある。インフラ分野における**グローバルな情報や意見交換の重要性、必要性が高い。**
- **本日のラウンドテーブルミーティングに期待。**